

令和元年度 日立市教育研究会先進校等調査派遣研修報告書

日立市立日高小学校 教諭 椎名一磨

- 派遣期日 令和元年10月25日（金）
- 研修先 学校名（会場名） 横浜市立東山田中学校
所在地 〒224-0023 神奈川県横浜市都筑区東山田2-9-1
<https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/jhs/higashiyamata/>

3 研修内容

主題主題：地域学校協働本部とコミュニティスクールの一体的・効果的運営
ー子供も大人も一緒に学ぶー

（1）東山田中学校のブロック学校運営協議会

東山田中学校小中一貫教育推進ブロックでは、横浜市の指針に基づいて9年間で育てる子ども像を明確にしながら研究授業や児童生徒交流活動等を積極的に行っている。また、神奈川県発のコミュニティスクール東山田中学校の学校運営協議会に小学校も参加するなど実績を重ね、平成30年4月からは、東山田中学校、山田小学校、北山田小学校、東山田小学校の4校で合同の学校運営協議会を設置している。ブロック学校運営協議会は、地域住民、保護者、学識経験者、学校関係者合わせて20名以内で構成し、委員は校長が推薦している。今年度の学校運営協議会の委員構成は、小学校や地域学校協働本部との連携を考慮し、以下のようになっている。

	肩書		肩書
保護者	東山田中学校PTA会長	地域住民	東山田連合町内会副会長
	山田小学校PTA会長		北山田町内会副会長
	東山田小学校PTA会長		東山田地区主任児童委員
	北山田小学校PTA会長		東山田PTA同窓会代表
学識経験者	NPO法人 まちと学校のみらい代表	学校運営に資する活動を行うもの	東山田中コミュニティハウス館長
	スクールアドバイザー・経営コンサルタント		北山田小コミュニティハウス館長
	横浜弁護士会 弁護士		北山田小学校地域学校協働本部 学校地域コーディネーター
	東山田中学校 元校長		東山田中学校地域学校協働本部 学校地域コーディネーター

（2）地域と学校を結ぶための主な活動

①コミュニティカレンダーの作成（平成18年～）

東山田中学校区の学校と地域の情報をまとめ、地域全体で子どもに関心を持ち、くらしやすい地域になるようにという願いをこめて作成されている。学校で行われる行事だけでなく、地域のイベントや地域マップ、学区周辺の施設情報、防災に関する内容など、様々な情報が掲載されている。

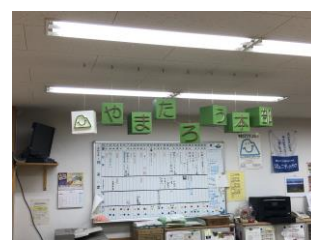
②ホームページの運営

東山田中学校区のコミュニティサイトとして平成22年度から始まった。これまでのあゆみや学区内の学校の情報、活動報告などを発信している。

やまたらうネット：<http://www.yamataro.net/>

③学校支援ボランティア養成講座の開催

平成22年度から児童生徒の授業の見守りや遠足の付き添い等の活動を始めとし、模擬面接の試験官や土曜日・放課後の学習支援等を行っている。それらに関わるボランティアの養成講座を毎年行い、地域学校協働本部で作成したボランティアハンドブックを用いて、ボランティア活動の意義や支援の際の約束などを確認している。



〈学校と地域の窓口となっている
地域学校協働本部（やまたらう本部）〉



〈ボランティアハンドブック〉

④やまたろうクラブ・Jクラブ

やまたろうクラブは、家庭学習の延長として楽しく学ぶ場を提供している。山田・北山田・東山田小学校の1～3年生を対象に東山田中学校コミュニティハウスで行われている。参加費無料で、研修を受けた大学生や地域のボランティアが1人1人に寄り添った支援をしている。Jクラブは、東山田中学校の生徒を対象に放課後の学びの場を提供している。

⑤中学校キャリア教育学習支援

東山田中学校のキャリア教育は、コミュニケーション能力の育成を大きなねらいとし、3年間の系統的な流れをもち、地域の方の協力のもと、全教職員と地域学校協働本部が連携して行っている。

○1年生「プロに学ぶ」…30人以上の若いプロを招き、その人の人生やキャリアについてインタビュー形式で学んでいく。そして学んだことをグループ毎にポスター制作や30秒間のCMにまとめ、みんなの前で発表する。

○2年生「職業体験」…約100カ所の企業・事業所で、3日間の職業体験を行う。最終的にはインタビューをし、それを元にリクルート社の指導・支援を受け、冊子を作成し、お世話になった事業所に届ける。

○3年生「模擬面接」…30名以上の地域の方に面接官になってもらい、進路に向けての面接練習を行う。

○キャリア教育交流会…キャリア教育でお世話になった方を招き、全教職員・地域学校協働本部の地域コーディネーターの方々とキャリア教育についての情報交換会を行う。このような活動を通して、マナーや表現力、コミュニケーションの力を育んでいる。

(3) 第155回中学校学校運営協議会に参加して

東山田中学校コミュニティハウスで16時30分から学校運営協議会が開かれ、その様子を見学した。第155回というのは、東山田中学校の学校運営協議会が発足してからの会議の回数であり、継続性をもち活動が積み重なっていることを表している。東山田中学校学校運営協議会の構成委員は、校長・PTA会長・町内会役員・民生委員・地域コーディネーター・学校ボランティアなどであり、様々な視点で話し合いが行われていた。

①生徒会本部役員との懇談

生徒会役員及び各委員会の委員長が学校運営協議会に参加し、活動報告を行っていた。その後、学校運営協議会の委員が生徒へ感想を伝えたり、質問したりして交流していた。地域の人が生徒の日々の活動の様子を知る機会となるとともに、地域の人々の考えや思いが今後の活動に反映されるような懇談となっていた。

②特活指導部との懇談

教職員が会議に参加し、生徒会指導・学級指導・進路指導についての経過及び今後の活動の報告を行っていた。学校で行われている活動を共有する中で、地域の方の視点も加わった学校作りがなされていた。学級指導の中で、特別な支援を要する生徒についての話が校長から挙がり、ボランティアをつけることはできないかという話を会議の中でしていた。学校運営協議会が聞き手ではなく、パートナーとなり、共に課題の解決にあたっている。

4 感想

学校運営協議会を参観させていただき、いちばん驚いたのは、疑問や課題に対して、だれもが主体的に取り組んでいたことである。生徒による活動報告の場面で、学校運営協議会の役員の方々が生徒をよくほめており、生徒にとっても地域の人に見守られているという安心感があるのではないかなと思う。さらに教員だけでなく、様々な立場からの意見をもらうことで、地域の思いも学校運営に取り入れられていた。校長先生が会議の中で生徒たちに、「学校を動かしてきた経験やこの会議の経験を生かして、これからの学校・地域への貢献をしてほしい。そして大人になったときに、色々な形で学校・地域に帰ってきてほしい」という話をしていた。地域が主体的に学校に参画し生徒を見守る体制が、これからの地域を担う人材を育てていることを強く感じた。これからより変化の激しい時代を生きていく子どもたちには、多様な新しい課題の克服のために、ボランティアや民間非営利組織、社会貢献企業などの多様な個性で専門性に満ちた「教育力」を生かすことが大切だと思う。そのためにも地域と学校がパートナーとなり、子どもや地域の課題に取り組んでいくことの意義を強く感じた。